

陳 情 文 書 表

<p>受 理 番 号 ・ 受 理 年 月 日 及 び 件 名</p>	<p>陳情第116号（7. 3. 3） 神戸市で少人数学級を前進させることを求める陳情</p>
<p>陳 情 の 要 旨</p>	<p>1. 今すぐ30人以下学級を小学校、中学校で実現すること。 2. 20人学級を目指し、正規教職員増と教室の確保を神戸市の責任で行うこと。</p>
<p>陳 情 者 の 住 所 及 び 氏 名</p>	<p>神戸市中央区 子どもファーストな教育を考える会@KOBE～まずは少人数学級実現を～ 事務局長 西松 夏美</p>
<p>送 付 委 員 会</p>	<p>教育こども委員会</p>

神戸市会議長宛て

~~神戸市長 久元 喜造 様~~

~~神戸市教育長 福本 靖 様~~

2025年3月3日

子どもファーストな教育を考える会@KOBE～まずは少人数学級実現を～

事務局長 西松 夏美

(住所) 神戸市中央区

(電話)

神戸で少人数学級を前進させることを求める陳情書

【陳情趣旨】

私たちはコロナ禍で行われた分散登校で聞かれた「いつもより勉強がよく分かった」「意見を言いやすかった」などの子どもたちの声、そして「ゆとりをもって子ども一人一人と丁寧に関わることができた」といった先生たちの声から、少人数学級は子どもにも先生にも必要なのだ、と強く感じました。2021年度から国が小学校の35人学級を段階的に6年生まで拡大する、ということを決め実施してきました。それも大きな前進ではありますが、OECD平均では初等教育の一クラスの人数は21.1人(2020年)ということだけを見ても日本はかなり遅れていると言わざるを得ません。

学校に行きづらい子も多くいます。神戸市は独自の政策として「サポートルーム」を各学校に設置していますが、運営は各学校が行うため、一部の教員に負担が集中しています。また、サポートルームに参加できない子も多くいます。その中には、クラスの人数が少なくなれば教室までいかれる、という子もいるでしょう。実際、コロナ禍の分散登校では、不登校だった子が登校できるようになり、分散登校が終わったら再び来れなくなった、ということもありました。分散登校時のような少人数学級になれば、普段なかなか関われない「気になる子」にも関わったり、子どもの声をよく聴き、子どもたちの様子を見てわかりやすい授業をつくることも可能になり、現在学校に行けている子にとってももっと楽しい学校をつくることのできるのではないのでしょうか。

国の施策は来年度で一旦終了になります。しかし、現場ではまだまだ先生が足りなくて大変です。年度途中で先生が足りなくなることも起きています。神戸市は「教育日本一のまち」をうたっています。ぜひ、神戸市独自で予算を立て、20人以下学級へと大きく舵を切ってください。

以上の理由から、以下の事項について陳情いたします。

【陳情事項】

- 1、いまずぐ30人以下学級を小学校、中学校で実現してください。
- 2、20人学級をめざし、正規教職員増と教室の確保を神戸市の責任で行ってください。

~~署名856筆を添付いたします。~~

以上